

離乳の進め方のめやす



授乳期・離乳期は「食べることの基礎」を培う時期です。こどもの食べる楽しみや意欲・生きる力を育むことにつながっていきます。優しい気持ちで関わってあげましょう。また、この時期を家庭の食生活を見直すよいチャンスにしましょう。

月 齢		離乳の開始			離乳の完了					
		離乳初期（生後5・6か月頃）	離乳中期（7・8か月頃）	離乳後期（9～11か月頃）	離乳完了期（12～18か月頃）					
離乳食の回数		1日1回			1日2回			1日3回		
授乳の回数		母 乳：授乳のリズムに沿って子どもの欲するまま 育児用ミルク：授乳のリズムに沿って子どもの欲するまま			母 乳：授乳のリズムに沿って子どもの欲するまま 育児用ミルク：食後のほかに1日に3回程度			母 乳：授乳のリズムに沿って子どもの欲するまま 育児用ミルク：食後のほかに1日に2回程度		
スケジュール例 授乳の間隔で時間は変わります (授乳：授乳 離乳食：離乳食)		6:00 10:00 14:00 18:00 21:00 1回目 2回目 3回目 4回目 5回目			6:00 10:00 14:00 18:00 21:00 1回目 2回目 3回目 4回目 5回目			6:00 10:00 14:00 18:00 21:00 1回目 2回目 3回目 4回目 5回目		
食べ方（噛み方）の発達と進め方の目安		ゴックンすることを覚えさせましょう			モグモグ食べさせましょう			カミカミをくりかえし教えましょう		
調理形態（やわらかさの目安）		なめらかにすりつぶした状態（ヨーグルトくらい）			舌でつぶせるやわらかさ（豆腐くらい）			歯ぐきでつぶせるやわらかさ（バナナくらい）		
味つけの目安<だし>		食材の味を大切に<昆布・干しいたけ>			ほのかに味付けを<かつおぶしのだしは7～8か月頃から、いりこだしは8か月頃から>					
1 回 当 た り の 目 安 量	I 熱や力になる	穀類 (g)	全粥50～80g			全粥90～軟飯80g			軟飯90g～ご飯80g	
	II 体の調子を整える	野菜・果物 (g)	20～30g			30～40g			40～50g	
	III 血や肉や骨になるもの	魚 (g)	10～15g			15g			15～20g	
		又は肉 (g)	10～15g			15g			15～20g	
		又は豆腐 (g)	30～40g			45g			50～55g	
		又は卵 (個)	卵黄1～全卵1/3個			全卵1/2個 (いり卵・茶碗蒸しなど)			全卵1/2～2/3個 目玉焼き・卵焼きなど	
		又は乳製品 (g)	50～70g			80g			100g	
食 べ ら れ る 食 品 の 月 齢 の 目 安	◇穀類	米	うどん・そうめん			マカロニ・スパゲッティ				
	◇野菜・果物・海藻類	くせない野菜から	なるべく緑黄色野菜を多くする			海藻				
	◇大豆製品	つぶした豆腐	水煮大豆・きな粉			厚揚げ・油揚げ				
	◇魚類	白身魚(たい・ひらめなど)	さけ・赤身魚(まぐろ、かつお、あじなど)			青皮魚(さば・さんま・いわしなど)				
	◇卵	卵黄<固ゆで>	全卵							
	◇乳製品	ヨーグルト・粉チーズ	スライスチーズ・スティックチーズ			牛乳				
	◇油脂類	バター・マーガリン・植物油	マヨネーズ							
◇肉類	脂肪の少ない肉(鶏肉)・レバー	牛肉・豚肉								

○離乳食の増やし方の目安

初めての食品は離乳食用のスプーン1さじから始めましょう。

	つぶしがゆ	いも野菜	豆腐 白身魚 卵黄
1日目	1さじ		
2日目	1さじ		
3日目	1さじ		
4日目	1さじ		
5日目	1さじ		
6日目	1さじ	1さじ	
7日目	1さじ	1さじ	
8日目	1さじ	1さじ	
9日目	1さじ	1さじ	
10日目	1さじ	1さじ	1さじ

《この時期に注意してほしい食品》
♪ はちみつ ※1歳を過ぎるまでは与えない(乳児ボツリヌス症予防のため)

- ♪ 塩分の多い漬物・佃煮類
- ♪ 刺激の強い香辛料(しょうが・わさび)
- ♪ アクの強い山菜
- ♪ 貝類・いか・たこ・えび・かに
- ♪ そば
- ♪ コーヒー・紅茶・緑茶・ウーロン茶
- ♪ チョコレート・ココア
- ♪ 繊維が多くて硬いもの(ごぼう・れんこん・たけのこ)

《注意しましょう》
♪ 牛乳を飲用するのは、1歳を過ぎてからにしましょう。ただし、離乳食作りの材料としては少量であれば使えます。
♪ フォローアップミルクは母乳代替品ではなく、離乳が順調に進んでいる場合は飲む必要はありません。

《食物アレルギーの対応について》
離乳食を進めるに当たり、食物アレルギーが疑われる症状(じんましん、かゆみ等)がみられた場合、自己判断で対応せず、必ず医師の診断に基づいて進めましょう。下記の食品は、特定のアレルギー体質を持つ場合に、強いアレルギー反応を引き起こすことがあるので注意しましょう。

- えび・カシューナッツ・かに・くるみ・小麦・そば・卵・乳・落花生(ピーナッツ)
- アーモンド・あわび・いか・いくら・オレンジ
- キウイフルーツ・牛肉・ごま・さけ・さば
- 大豆・鶏肉・バナナ・ピスタチオ・豚肉
- マカダミアナッツ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン

上記に示す事項は、あくまでも目安であり、こどもの食欲や成長・発達の状況に応じて調整しましょう。

成長の目安：母子健康手帳の成長曲線のグラフに体重・身長を記入して、成長曲線のカーブにそって伸びていれば大丈夫です。